

事業名	高齢者生きがい活動通所支援事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	4-⑥	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	健康医療部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	いきいき高齢課		高齢者生きがい通所支援事		款	3	新規or継続	継続事業
	係	高齢福祉係		業		項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	331	名称	根拠法令、条例等		目	3	義務or任意	任意の事業
	基本目標	3	健やかで元気に暮らせるまちづくり		事業 期間	開始年度	H13年	実施方法	一部委託
	政策	3	助け合い生きがいを実感できるまちづくり			終了年度	-	事業分類	支援事業
	施策	1	豊かで健やかな長寿社会の実現						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	家に閉じこもりがちな高齢者に対し、通所の場を設けて各種サービスを提供することにより、社会的孤立感の解消、自立生活の助長及び要介護状態になることの予防を図ることを目的とする。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	自立生活の助長及び要介護状態になることの予防を図ることを目的とする。生きがいを持って生活をしてもらうとともに多様な社会活動に参加してもらう。
-------------------------	--

（3）目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
事業参加人数	人	1,600	1,800	2,000	2,200	2,400

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	市内5箇所(堀米高齢者はつらつセンター、葛生あくと保健センター、常盤地区公民館、氷室地区公民館、会沢地区コミュニティセンター)で実施している。地区社協、社協に事業委託しており、教養講座やスポーツ活動、創作活動、趣味活動、介護予防、健康づくり等の事業を展開する。 実施回数は、週 1 回程度となっている。
--------------------------	--

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
事業参加人数	人	1,469	1,853	2,321
事業費計	千円	3,999	4,471	4,826
一般財源	千円	1,605	1,731	2,734
特定財源（国・県・他）	千円	2,394	2,739	2,093
（うち受益者負担）	千円			

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	参加人数を増加させることができた。高齢者に対し、通所の場を設けて各種サービスを提供することにより、社会参加を促進し、社会的な孤独感の解消、自立した生活を推進することができた。
------------------	---

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
事業参加人数	人	1,469	1,853	2,321	値が大きいほど良い	効果が上がった

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用が増加した
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 1指標
	効果は変わらない指標数 0指標
	効果が下がった指標数 0指標
	指標全体 効果が上がった

※ 1 0 万円以上の増減により判断

効果			
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
費用は下がった			
費用の増減無し			
費用が増加した	○		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

地域でのボランティアの参加や介護予防事業などと連携が図られており、コロナ禍も落ち着き、利用人数は増加しており、一定の成果は出ている。 現状の委託方法ではこれ以上コスト削減はできないが、一般介護予防事業に移行することで、一般財源を削減することができる。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☒ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 一般介護予防事業に移行するためには、実施団体の理解を得る必要がある。
---	---

事業名	高齢者生きがい工房運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	健康医療部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	いきいき高齢課			款	3	新規or継続	継続事業
	係	高齢福祉係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	331	名称	根拠法令、条例等	目	3	義務or任意	義務的事業
	基本目標	3	健やかで元気に暮らせるまちづくり	佐野市高齢者生きがい工房 条例、同施行規則	事業期間	開始年度	平成 5 年	実施方法
	政策	3	助け合い生きがいを実感できるまちづくり		終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	豊かで健やかな長寿社会の実現					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	高齢者の生きがいと趣味活動・社会参加を促進するため、各種の教養活動の場として設置された、高齢者生きがい工房の維持管理を行う。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	各種の教養活動の場として設置された、高齢者生きがい工房の維持管理を行い、高齢者の生きがいと趣味活動・社会参加を促進する。
-------------------------	--

（3）目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
生きがい感じている高齢者の割合	%	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	高齢者の生きがいと趣味活動・社会参加を促進するため、各種の教養活動の場として設置された高齢者生きがい工房の維持管理を行った。
--------------------------	--

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
生きがい工房の利用回数	回	125	145	142
利用者延べ人数	人	744	923	451
事業費計	千円	803	805	926
一般財源	千円	803	805	926
特定財源（国・県・他）	千円			
（うち受益者負担）	千円			

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	生きがい感じている高齢者の割合は若干増加したが、利用回数、利用者数が減少傾向にあり、利用団体は1団体のみとなっている。
------------------	---

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
生きがい感じている高齢者の割合	%	71.2	73.9	74.8	値が大きいくほど良い	効果が上がった

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用が増加した
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 1指標
	効果は変わらない指標数 0指標
	効果が下がった指標数 0指標
	指標全体 効果が上がった

※ 1 0 万円以上の増減により判断

効果		
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった		
費用の増減無し		
費用が増加した	○	

4. 次年度に向けた検討

（1）令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

佐野市市有施設適正配置計画において、B(統合・複合化)となっており、今後検討が必要。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

取組説明	
☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	統合・複合化に向けて検討する必要がある。

事業名	高齢者生活路線バス運賃助成事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	健康医療部	予算中事業名	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	いきいき高齢課			款	新規or継続	継続事業
	係	高齢福祉係			項	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	331	名称	事業期間	目	3	義務or任意
	基本目標	3	健やかで元気に暮らせるまちづくり		開始年度	平成20年	実施方法
	政策	3	助け合い生きがいを実感できるまちづくり		終了年度	-	事業分類
	施策	1	豊かで健やかな長寿社会の実現				現金等給付事業
		根拠法令、条例等		佐野市高齢者生活路線バス運賃助成要綱			

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	高齢者が生活路線バスを利用する場合において、その利用に係る運賃の一部を助成することにより高齢者の交通手段を確保し、もって高齢者の福祉の向上を図ることを目的とする。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	高齢者の移動手段の確保と外出支援を図る。自立した生活を送れ、多様な社会活動に参加できるようにする。
-------------------------	---

（3）目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
助成件数	件	17,000	19,000	21,000	23,000	25,000
利用者証交付者数	人	500	550	600	650	700

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	高齢者の移動手段の確保と、外出支援を図るため、70歳以上の方に、生活路線バスを利用する際に後期高齢者医療被保険者証又は利用者証を提示することで乗車運賃を150円助成した。
--------------------------	---

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
助成件数	件	17,512	19,225	21,861
利用者証交付者数	人	612	566	716
事業費計	千円	2,663	2,884	3,279
一般財源	千円	2,663	2,884	3,279
特定財源（国・県・他）	千円			
（うち受益者負担）	千円			

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	令和3年度から助成券廃止し、後期高齢者医療被保険者証又は助成利用者証の提示により助成回数を無制限としたため、高齢者の移動手段の拡充ができ、助成件数と利用者証交付者数が増加している。また、市民の方に事業の情報周知が進み、目標に近づくことができた。
------------------	--

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
助成件数	件	17,512	19,225	21,861	値が大きいのほど良い	効果が上がった
利用者証交付者数	人	612	566	716	値が大きいのほど良い	効果が上がった

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用が増加した
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 2指標
	効果は変わらない指標数 0指標
	効果が下がった指標数 0指標
	指標全体 効果が上がった

※ 10万円以上の増減により判断

効果		
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった		
費用の増減無し		
費用が増加した	○	

4. 次年度に向けた検討

（1）令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

引き続き利便性の高い交通手段の確保や助成額の拡充、利用方法の周知が必要。 保険証のマイナンバーカードへの移行に伴い、後期高齢者医療被保険者証が発行されなくなることから、75歳以上の方も助成を受ける際、利用者証が必要になることを周知し、申請を促す。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☒ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 今年度は保険証がマイナ保険証に移行するため、保険証が発行されなくなる。それに伴い、75歳以上の方へ利用者証申請について周知し、申請を促す。また助成額について見直しを検討する。
--	---

事業名	高齢者福祉センター設備改修事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	健康医療部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度のみ
	課	いきいき高齢課				款	3	新規or継続	新規事業
	係	高齢福祉係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	331	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	3	健やかで元気に暮らせるまちづくり		事業期間	開始年度	令和5年	実施方法	直営
	政策	3	助け合い生きがいを実感できるまちづくり			終了年度		事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	豊かで健やかな長寿社会の実現						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	高齢者福祉センターの定期点検時に指摘があった箇所について改修を行う。 ・田沼老人福祉センター浴槽ろ過装置改修工事 ・茂呂山老人福祉センター空調設備改修工事
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	指摘箇所の改修を行うことにより、利用者が安心して快適に施設を利用できるようにする。
-------------------------	---

（3）目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
老人福祉センター利用者数	人	146,000	84,200	106,300	128,400	150,500

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・田沼老人福祉センター浴槽ろ過装置改修工事 工事期間 令和5年11月～令和6年3月 ・茂呂山老人福祉センター空調設備改修工事 工事期間 令和6年2月～令和6年6月（繰越）
--------------------------	--

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
田沼老人福祉センター利用者数	人	9,565	10,416	12,376
茂呂山老人福祉センター利用者数	人	37,395	36,850	39,219
事業費計	千円	0	0	33,168
一般財源	千円	0	0	33,168
特定財源（国・県・他）	千円			
（うち受益者負担）	千円			

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	利用者が安心して快適に利用できるように、早急な対応が必要な箇所から改修を行った。 また、新型コロナウイルスの5類移行に伴い利用者数が回復傾向にある。
------------------	---

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
老人福祉センター利用者数	人	56,600	56,908	69,890	面が大きいほど良い	効果が上がった

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用が増加した
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数1指標
	効果は変わらない指標数0指標
	効果が下がった指標数0指標
	指標全体効果が上がった

※ 1 0 万円以上の増減により判断

効果			
	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用	費用は下がった		
	費用の増減無し		
	費用が増加した	○	

4. 次年度に向けた検討

（1）令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

施設の改修が主な事業内容であり、利用者の利便性から早急に対応した方が良いものから改修を行ってきた。 施設の老朽化に伴い、改修箇所は多いが、利用者が安全・安心して利用できるよう計画的に対応していく。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

取組説明
☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）
施設の改修しなければいけない箇所については概ね把握できているので、順次対応していく。本事業は施設の改修事業であるため、費用対効果向上の余地はなく、現状の計画通り実施する。

仕事の振り返りシート（令和５年度実施分）

作成・更新日 2024年12月13日

事業名	高齢者福祉センター等指定管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	4-⑥	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	健康医療部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	いきいき高齢課			款	3	新規or継続	継続事業
	係	高齢福祉係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	331	名称		目	4	義務or任意	義務的事業
	基本目標	3	健やかで元気に暮らせるまちづくり	事業期間	開始年度	昭和47年	実施方法	指定管理者
	政策	3	助け合い生きがいを実感できるまちづくり		終了年度		事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	豊かで健やかな長寿社会の実現					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	高齢者福祉の増進を図るため、及び高齢者の社会参加を促進するため、佐野市高齢者福祉センターを設置する。 ・指定管理者 佐野市社会福祉協議会（株）HSコーポレーション ・事業内容 レクリエーションまたは集会のための施設の提供 教養向上のための講演会及び講習会の開催 生活相談、健康相談その他各種相談
------	---

（2）目的

目的 （本事業によって成し遂げたい状態）	おおむね60歳以上の高齢者に生きがいを持って生活してもらうとともに、多様な社会活動に参加してもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		老人福祉センター利用者数	人	146,000	84,200	106,300	128,400	150,500

（3）目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R5年度に行った主な活動内容）	・施設の管理・運営 新型コロナウイルスの5類移行に伴い、利用制限を順次緩和した。利用者数が1万人以上回復した。 ・施設が老朽化しており、修繕箇所が多数存在した。緊急性・必要性から判断し、的確に修繕を行い運営に支障が起きないようにした。 茂呂山老人福祉センター：浴場水栓金具交換修繕、ボイラー部品交換修繕 葛生あくと福祉センター：真空温水ヒーター修繕、浴室天井点検口修繕 遠原の里老人福祉センター：受電設備修繕、エアコン修繕	活動指標	単位	R3	R4	R5
		老人福祉センター利用者数	人	56,600	56,908	69,890
		60歳以上の高齢者数	人	43,798	43,643	43,480
		事業費計	千円	137,636	138,778	138,374
		一般財源	千円	137,636	138,778	138,374
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明 （定量及び定性）	指定管理者との連携により、利用制限の緩和。適切な修繕を行うことにより、運営に支障を出すことがなかった。以上により、利用者数が回復した。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		老人福祉センター利用者数	人	56,600	56,908	69,890	値が大きいくらい良い	効果が上がった

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用は下がった	※10万円以上の増減により判断	効果		
効果が上がった指標数	1指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果は変わらない指標数	0指標				
効果が下がった指標数	0指標				
指標全体	効果が上がった				

費用	費用は下がった	○		
	費用の増減無し			
	費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和５年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

指定管理者から施設の修繕が必要な箇所を随時報告させるようにし、情報共有を図った。 各施設の修繕が必要な箇所においては概ね把握ができたので、次年度以降順次修繕を行っていく。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和６年度及び令和７年度の取組

☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 施設の老朽化に伴い修繕箇所は多いが、高齢者が安心して福祉センターを利用できるように、指定管理者と連携の上、適宜修繕を行う。本事業において施設維持・修繕が主な市の役割であるため、費用対効果向上の余地はなく、現状の計画通り実施する。
---	--

事業名	老人クラブ支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	健康医療部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰返し	
	課	いきいき高齢課		老人クラブ支援事業		款	3	新規or継続	継続事業	
	係	高齢福祉係				項	1	市単独or国県補助	国県補助事業	
政策体系	体系コード	331	名称	根拠法令、条例等	事業 期間	目	3	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	3	健やかで元気に暮らせるまちづくり			開始年度	S40	実施方法	直営	
	政策	3	助け合い生きがいを実感できるまちづくり				終了年度	－	事業分類	支援事業
	施策	1	豊かで健やかな長寿社会の実現							
				佐野市老人クラブ等活動支援補助金交付要綱						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	シニアクラブを高齢者の社会参加と生きがい活動の推進組織として位置づけ、クラブの活動に対する補助を行う。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	60歳以上の高齢者等がシニアクラブの活動を通じて、仲間づくり、生きがいづくりを行っている。
-------------------------	---

（3）目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
シニアクラブ会員数	人	3,005	3,005	3,005	3,005	3,005
シニアクラブ数	クラブ	87	87	87	87	87

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・市の活動 補助金の支出 シニアクラブ連合会 1,350,000円 単位シニアクラブ 81クラブ 計2,766,000円
	・シニアクラブの活動 シニアクラブ連合会 総会、定例会、スポーツ大会、作品展、 シニアリーダー研修会、広報誌発行、秀郷まつり(踊り)参加 単位シニアクラブ 各種スポーツ活動、文化活動の実施、社会奉仕の日参加

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
総会の開催回数	回	1	1	1
定例会の開催回数	回	6	5	6
事業費計	千円	4,103	4,348	4,116
一般財源	千円	1,849	1,917	2,167
特定財源（国・県・他）	千円	2,254	2,431	1,949
（うち受益者負担）	千円	0	0	0

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	シニアクラブ数、会員数を増やすための活動を行い、新規に1つのクラブが設立され、会員数を36名増加させた単位シニアクラブがあったが、それを超える休廃止するクラブや体調等の理由により退会する会員が出てしまった。
------------------	---

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
シニアクラブ会員数	人	3,231	3,005	2,740	値が大きいほど良い	効果が下がった
シニアクラブ数	クラブ	91	87	81	値が大きいほど良い	効果が下がった

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）		費用が増加した
効果 (R5とR4の 指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標
	効果は変わらない指標数	0指標
	効果が下がった指標数	2指標
	指標全体	効果が下がった

※ 10万円以上の増減により判断

効果			
	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用	費用は下がった		
	費用の増減無し		
	費用が増加した		○

4. 次年度に向けた検討

（1）令和５年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・高齢者数は年々増加しているが、シニアクラブの組織率は低下しており、単位シニアクラブ数及びクラブ員数とも減少している。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和６年度及び令和７年度の取組

取組説明
☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り） ・連合会を通じて各単位シニアクラブに働きかけ、単位シニアクラブにおいて地域の高齢者宅を訪問するなど、シニアクラブの活動の紹介及びPRを行い、クラブ加入の勧誘を行う。 ・市は単位シニアクラブの活動を活発化させ魅力あるものにするため、受講しやすい各種講座や教室などの情報を提供していく。

事業名	シニア地域デビュー推進事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	1-①	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	健康医療部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	いきいき高齢課			款	3	新規or継続	新規事業
	係	高齢福祉係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	331	名称	根拠法令、条例等	目	3	義務or任意	任意的事業
	基本目標	3	健やかで元気に暮らせるまちづくり	佐野市シニア地域デビュー条例	事業期間	開始年度	R 5	実施方法
	政策	3	助け合い生きがいを実感できるまちづくり		終了年度	－	事業分類	直営
	施策	1	豊かで健やかな長寿社会の実現					啓発事業

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	シニア世代の地域デビューを推進するため、佐野市シニア地域デビュー条例制定に関する周知活動等を実施する。
------	---

（2）目的

目的 （本事業によって成し遂げたい状態）	・対象であるおおむね60歳以上のシニア世代の市民が、生きがいを持って地域でいきいきと生活できる社会を実現する。 ・市民が、シニア世代の地域デビューに関する理解と関心を深めている。 ・仕事を退職された方など、時間に余裕ができた高齢者が地域活動や通いの場等に参加する機会が増えている。
-------------------------	--

（3）目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
シニアクラブ会員数	人	4,300	3,300	3,400	3,500	3,600
ふれあいサロン参加人数	人	62,500	39,500	49,000	58,500	68,000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R5年度に行った主な活動内容）	・シニア地域デビュー条例制定チラシを全世帯に配布 ・SANO健康いきいき講演会を開催 講師 岩井俊宗氏 ・シニアデジタルバйд対策講習会を開催
--------------------------	--

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
講演会の開催	回	－	－	1
チラシの全戸配布	回	－	－	1
デジタルバйд対策講習会	回	－	－	9
事業費計	千円	0	0	399
一般財源	千円	0	0	69
特定財源（国・県・他）	千円	0	0	330
（うち受益者負担）	千円	0	0	0

（3）活動による効果

効果説明 （定量及び定性）	・条例制定に関するチラシを全世帯に配布し、講演会を開催したことにより、市民のシニア世代の地域デビューに関する理解と関心が深まった。
------------------	---

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
シニアクラブ会員数	人	3,231	3,005	2,740	値が大きいほど良い	効果が下がった
ふれあいサロン参加人数	人	40,586	40,845	40,470	値が大きいほど良い	効果が下がった

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断	効果		
効果 （R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標			
	効果が下がった指標数	2指標			
指標全体		効果が下がった			

費用	費用は下がった			
	費用の増減無し			
	費用が増加した			○

4. 次年度に向けた検討

（1）令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

シニア世代の市民が地域デビューすることを推進するため、情報提供、きっかけづくり及び仲間づくりの支援を行う必要がある。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 シニア世代の市民が地域デビューできるように ①シニア地域デビュー手引書を作成する。 ②シニア地域デビュー手引書の概要版等を作成し、周知する
---	---

事業名	シルバー人材センター支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	健康医療部	予算中事業名		会計	1	事業計画	単年度繰り返し
	課	いきいき高齢課	シルバー人材センター支援事業		款	3	新規or継続	継続事業
	係	高齢福祉係	業		項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	331	名称		目	3	義務or任意	義務的の事業
	基本目標	3	健やかで元気に暮らせるまちづくり		事業期間	開始年度	S58	実施方法
	政策	3	助け合い生きがいを実感できるまちづくり		終了年度			事業分類
	施策	1	豊かで健やかな長寿社会の実現					支援事業
			老人福祉法 高齢者等の雇用の安定等に関する法律					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	シルバー人材センターの適正な運営と事業の促進を目的として、運営費補助金を交付する。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	佐野市シルバー人材センター運営費補助金を交付し、シルバー人材センターを支援することで、高齢者等の職業の安定及び福祉の増進を図る
-------------------------	---

（3）目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
登録会員数	人	550	550	550	550	550
生きがい感じている高齢者の割合	%	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	佐野市シルバー人材センター運営費補助金（運営費、事業費）を補助金として支出し、シルバー人材センターの支援を行った。
--------------------------	---

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
補助金額	千円	14,000	14,000	14,000
事業費計	千円	14,050	14,050	14,050
一般財源	千円	14,050	14,050	14,050
特定財源（国・県・他）	千円			
（うち受益者負担）	千円			

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	近年、登録会員数が減少傾向であったが、て若干であるが増やすことができた。
------------------	--------------------------------------

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
登録会員数	人	477	468	489	値が大きいほど良い	効果が上がった
生きがい感じている高齢者の割合	%	71.2	73.9	74.8	値が大きいほど良い	効果が上がった

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数2指標
	効果は変わらない指標数0指標
	効果が下がった指標数0指標
	指標全体効果が上がった

※ 1 0 万円以上の増減により判断

効果		
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった		
費用の増減無し	○	
費用が増加した		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

若干であるが増やすことができたが、登録会員数を増やすため、周知等を含む新たな取り組みを検討する必要がある。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

取組説明
☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☒ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り） 事業効果を上げるため、事業者と連携を図りながら、新たな取り組みを検討する。

事業名	シルバーワークプラザ等指定管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	健康医療部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	いきいき高齢課			款	3	新規or継続	継続事業
	係	高齢福祉係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	331	名称	根拠法令、条例等	目	3	義務or任意	義務的事業
	基本目標	3	健やかで元気に暮らせるまちづくり	佐野市シルバーワークプラザ条例、同施行規則	事業期間	開始年度	平成 5 年	実施方法
	政策	3	助け合い生きがいを実感できるまちづくり		終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	豊かで健やかな長寿社会の実現					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要								
事業概要	健康で働く能力や意欲のある高齢者の就業、研修、会議等で活用するシルバーワークプラザを設置することにより高齢者の能力活用及び社会参加を促進する。							
(2) 目的		(3) 目標値						
目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	健康で働く能力や意欲のある高齢者の就業、研修、会議等で活用するシルバーワークプラザを設置することにより高齢者の能力活用及び社会参加を促進する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		生きがい感じている高齢者の割合	%	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0
		介護予防教室の延べ参加者数	人	7,900	8,100	8,300	8,500	8,700

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績		(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移				
活動実績 (R5年度に 行った主な活 動内容)	指定管理者による施設の管理運営を行った。 シルバー人材センターを指定管理者としている。	活動指標	単位	R3	R4	R5
		利用者数	人	1,901	2,195	2,505
		利用回数	回	199	215	231
		事業費計	千円	4,427	4,528	4,591
		一般財源	千円	4,427	4,528	4,591
		特定財源(国・県・他)	千円			
		(うち受益者負担)	千円			

(3) 活動による効果		(4) 事業効果を説明する数値データの推移					↓選択して下さい	
効果説明 (定量及び 定性)	生きがいを感じている高齢者の割合が増加し、シルバークプラザの 利用者も若干増加している。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比
		生きがい感じている高齢者の割合	%	71.2	73.9	74.8	値が大きいのほど良い	効果が上がった
		介護予防教室の延べ参加者数	人	5,022	6,767	8,074	値が大きいのほど良い	効果が上がった

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断	効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標				
	効果が下がった指標数	0指標				
	指標全体	効果が上がった				

費用	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	
	費用が増加した		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題									
佐野市市有施設適正配置計画において、B(統合・複合化)となっており、今後検討が必要。									

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

取組説明		
☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）		統合・複合化に向けて検討する必要がある。

事業名	高齢者ふれあいサロン事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	4-⑥	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	健康医療部	予算中事業名	予算科目	会計	1	事業計画	単年度繰り返し
	課	いきいき高齢課			款	3	新規or継続	継続事業
	係	高齢福祉係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	331	名称		目	3	義務or任意	任意の事業
	基本目標	3	健やかで元気に暮らせるまちづくり	事業期間	開始年度	H13	実施方法	一部委託
	政策	3	助け合い生きがいを実感できるまちづくり		終了年度		事業分類	支援事業
	施策	1	豊かで健やかな長寿社会の実現					
			根拠法令、条例等	佐野市高齢者ふれあいサロン事業実施要綱				

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	高齢者が地域の中でいきいきとした生活ができるよう、高齢者と地域住民が、いきがい、健康づくり及び社会参加を共に促進することにより、高齢者の孤立感や不安感の解消を図る。 単位老人クラブ等に委託し事業を実施している。
------	--

（2）目的

目的 （本事業によって成し遂げたい状態）	高齢者が地域の中でいきいきとした生活ができるよう、高齢者と地域住民とが、生きがい・健康づくり及び社会参加を共に促進することにより、高齢者の孤立感や不安感の解消を図り、もって明るい長寿社会の実現を目的とする
-------------------------	--

（3）目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
社会と関わりをもつ活動をしている高齢者の割合	%	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
利用者数	人	62,500	39,500	49,000	58,500	68,000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R5年度に行った主な活動内容）	家に閉じこもりがちな高齢者に対し、地域の中でいきいきとした生活ができるよう、誰でも気軽に参加できる場として、老人クラブ等に委託し、「ふれあいサロン」を開設した。
--------------------------	--

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
ふれあいサロン開設数	箇所	71	76	73
事業費計	千円	3,325	3,692	3,450
一般財源	千円	1,114	1,169	1,200
特定財源（国・県・他）	千円	2,211	2,523	2,250
（うち受益者負担）	千円			

（3）活動による効果

効果説明 （定量及び定性）	利用者数は減少傾向にあるが、社会と関わりをもつ活動をしている高齢者の割合については、増加している。
------------------	---

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
社会と関わりをもつ活動をしている高齢者の割合	%	15.3	15.2	16.6	値が大きいほど良い	効果が上がった
利用者数	人	40,586	40,845	40,470	値が大きいほど良い	効果が下がった

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し
効果 （R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数1指標
	効果は変わらない指標数0指標
	効果が下がった指標数1指標
	指標全体効果は変わらない

※ 1 0 万円以上の増減により判断

効果			
費用		効果が上がった	効果は変わらない
		費用は下がった	
		費用の増減無し	○
		費用が増加した	

4. 次年度に向けた検討

（1）令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

ふれあいサロン開設数が、年々減少傾向にあるため、開設数を増加する必要がある。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

取組説明
☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☒ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り） ・社会福祉協議会と連携し、サロンが設置されていない町会に働きかけ、サロンの設置を促す。 ・市はサロンの活動を活発化させ魅力あるものにするため、受講しやすい各種講座や教室などの情報を提供していく。

事業名	田之入老人福祉センターPCB廃棄物処理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	健康医療部		予算中事業名	予算科目	会計	1	事業計画	期間限定複数年度
	課	いきいき高齢課		田之入老人福祉センターPCB		款	3	新規or継続	継続事業
	係	高齢福祉係		廃棄物処理事業費		項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	331	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	義務的事業
	基本目標	3	健やかで元気に暮らせるまちづくり	ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適	事業	開始年度	R4	実施方法	直営
	政策	3	助け合い生きがいを実感できるまちづくり	正な処理の推進に関する特	期間	終了年度	R5	事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	豊かで健やかな長寿社会の実現	別措置法（PCB 特措法）					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	特別管理産業廃棄物の一つであるPCB廃棄物については、法律により令和 8 年度までに全量廃棄処理することが義務付けられている。 田之入老人福祉センターで稼働している変圧器及び遮断機については、令和 5 年度が処分実施予定年度となっていることから、令和 4 年度に更新工事を実施し、令和 5 年度に運搬・処分を実施する。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	特別管理産業廃棄物の一つであるPCB廃棄物について、PCB混入機器の運搬・処分を行う。
-------------------------	---

（3）目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
PCB廃棄物運搬・処理	件	0	0	1	0	0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R 5 年度に行った主な活動内容)	市全体としてスケジュールを決めており、令和4年度に機器の撤去・更新工事を行い、令和5年度に運搬・処分をした。
----------------------------	--

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
PCB廃棄物運搬・処理	件	0	0	1
事業費計	千円	0	0	496
一般財源	千円	0	0	496
特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0
（うち受益者負担）	千円	0	0	0

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	PCB廃棄物を処分したことで、施設を安心・安全に運用することができた。
------------------	-------------------------------------

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
PCB廃棄物運搬・処理	件	0	0	1	値が大きいくらい良い	効果が上がった

↓ 選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用が増加した
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数1指標
	効果は変わらない指標数0指標
	効果が下がった指標数0指標
	指標全体効果が上がった

※ 1 0 万円以上の増減により判断

効果		
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった		
費用の増減無し		
費用が増加した	○	

4. 次年度に向けた検討

（1）令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

スケジュールどおりPCB混入機器の運搬・処分を行った。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

取組説明
☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）
スケジュールどおり、PCB混入機器を運搬・処分したため、これ以上の対応はない。

事業名	福祉有償運送事業運営協議会運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	健康医療部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰返し
	課	介護保険課				款	3	新規or継続	継続事業
	係	介護サービス係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	331	名称	根拠法令、条例等		目	1	義務or任意	義務の事業
	基本目標	3	健やかで元気に暮らせるまちづくり		事業 期間	開始年度	H27	実施方法	直営
	政策	3	助け合い生きがいを実感できるまちづくり			終了年度	-	事業分類	許認可・審査事務
	施策	1	豊かで健やかな長寿社会の実現						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	福祉有償運送事業の必要性や当該事業を行う場合に旅客から収受する対価及びその他福祉有償運送の適正な運営を確保するため福祉有償運送協議会を開催し、協議が調った際には、福祉有償運送事業者に対してその旨を証する書類を発行する。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市内の福祉有償運送が適正に運営されるよう図る。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		協議が調った件数/申請件数	%	100	100	100	100	100

（3）目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	令和5年6月30日開催 自家用有償運送旅客事業者の指定更新について協議をした(更新2件)。	活動指標	単位	R3	R4	R5
		協議会開催回数	回	2	1	1
		事業費計	千円	0	0	15
		一般財源	千円	0	0	15
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	市内の福祉有償運送が適正に運営された。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		協議が調った件数/申請件数	%	100	100	100	値が大きいほど良い	効果は変わらない

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し	※１０万円以上の増減により判断			効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	費用	費用は下がった	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	1指標		費用の増減無し			
	効果が下がった指標数	0指標		費用が増加した			
	指標全体	効果は変わらない					

4. 次年度に向けた検討

（1）令和５年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

地域への移動手段との連携が必要である。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和６年度及び令和７年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 更新申請のための書類作成が適正に行われた。
---	-----------------------------------

事業名	敬老会開催支援事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	健康医療部	予算中事業名	予算科目	会計	1	事業計画	単年度繰返し
	課	いきいき高齢課			款	3	新規or継続	継続事業
	係	高齢福祉係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	331	名称		目	3	義務or任意	任意の事業
	基本目標	3	健やかで元気に暮らせるまちづくり	老人福祉法	事業期間	開始年度	H17	実施方法
	政策	3	助け合い生きがいを実感できるまちづくり		終了年度		事業分類	支援事業
	施策	1	豊かで健やかな長寿社会の実現					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	高齢者の長寿を祝い、記念品を配布してねざらうとともに、敬老会の実施団体を支援することで、地域住民に対して敬老精神の高揚を図る。敬老会は、地区単位で9月～10月にかけて公民館、小学校、コミュニティ施設等で開催する。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	高齢者の長寿を祝い、記念品を配布してねざらうとともに、敬老会の実施団体を支援することで、地域住民に対して敬老精神の高揚を図る。
-------------------------	---

（3）目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
生きがい感じている高齢者の割合	%	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	式典の開催について、令和5年度は感染リスクの高い高齢者を集会させる形式については、敬遠したい意向もあると想定し、画一的に式典を開催するのではなく、各実行委員会等の任意とした。 式典開催とは別に、記念品の配布を実施した。 市としては、運営交付金を交付するための手続きを実施した。
--------------------------	--

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
対象敬老会実施団体数	団体	22	22	22
事業費計	千円	10,130	10,590	10,982
一般財源	千円	10,130	10,590	10,982
特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0
（うち受益者負担）	千円	0	0	0

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	若干であるが、生きがいをもって生活をしている高齢者の割合が増加傾向にある。
------------------	---------------------------------------

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
生きがい感じている高齢者の割合	%	71.2	73.9	74.8	画が大きいほど良い	効果が上がった

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用が増加した
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 1指標
	効果は変わらない指標数 0指標
	効果が下がった指標数 0指標
	指標全体 効果が上がった

※ 1 0 万円以上の増減により判断

効果			
	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用	費用は下がった		
	費用の増減無し		
	費用が増加した	○	

4. 次年度に向けた検討

（1）令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和5年度から所管課が生涯学習課からいきいき高齢課に移管された。 慶祝事業は業務改善計画に伴い、段階的に縮小・廃止等見直しを行ってきた経緯があるため、敬老会開催事業についても同様に、見直しが必要である。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

取組説明	
☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	実施主体に対し、アンケート調査を行い、令和7年度以降の敬老会事業の在り方を検討する。

事業名	敬老会開催事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	健康医療部	予算中事業名	会計	1	事業計画	単年度繰返し
	課	いきいき高齢課			3	新規or継続	継続事業
	係	高齢福祉係			1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	331	名称	事業期間	3	義務or任意	任意の事業
	基本目標	3	健やかで元気に暮らせるまちづくり		開始年度	H17	実施方法
	政策	3	助け合い生きがいを実感できるまちづくり		終了年度		事業分類
	施策	1	豊かで健やかな長寿社会の実現				イベント等開催事業

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	高齢者の長寿を祝い、記念品を配布してねざらうとともに、敬老会の実施団体を支援することで、地域住民に対して敬老精神の高揚を図る。敬老会は、地区単位で9月～10月にかけて公民館、小学校、コミュニティ施設等で開催する。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	高齢者の長寿を祝い、記念品を配布してねざらうとともに、敬老会の実施団体を支援することで、地域住民に対して敬老精神の高揚を図る。
-------------------------	---

（3）目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
生きがい感じている高齢者の割合	%	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	式典の開催について、令和5年度は感染リスクの高い高齢者を集会させる形式については、敬遠したい意向もあると想定し、画一的に式典を開催するのではなく、各実行委員会等の任意とした。 式典開催とは別に、記念品の配布を実施した。
--------------------------	--

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
対象敬老会実施団体数	団体	22	22	22
事業費計	千円	1,013	1,186	807
一般財源	千円	1,013	1,186	807
特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0
（うち受益者負担）	千円	0	0	0

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	若干であるが、生きがいをもって生活をしている高齢者の割合が増加傾向にある。
------------------	---------------------------------------

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
生きがい感じている高齢者の割合	%	71.2	73.9	74.8	画が大きいほど良い	効果が上がった

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用は下がった
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 1指標
	効果は変わらない指標数 0指標
	効果が下がった指標数 0指標
	指標全体 効果が上がった

※ 1 0 万円以上の増減により判断

効果		
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった	○	
費用の増減無し		
費用が増加した		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和５年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和5年度から所管課が生涯学習課からいきいき高齢課に移管された。 慶祝事業は業務改善計画に伴い、段階的に縮小・廃止等見直しを行ってきた経緯があるため、敬老会開催事業についても同様に、見直しが必要である。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和６年度及び令和７年度の取組

取組説明
☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り） 実施主体に対し、アンケート調査を行い、令和7年度以降の敬老会事業の在り方を検討する。

事業名	敬老祝金贈呈事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	健康医療部	予算中事業名	会計	1	事業計画	単年度繰り返し
	課	いきいき高齢課			3	新規or継続	継続事業
	係	高齢福祉係			1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	331	名称	事業期間	3	義務or任意	任意の事業
	基本目標	3	健やかで元気に暮らせるまちづくり		開始年度	H2	実施方法
	政策	3	助け合い生きがいを実感できるまちづくり		終了年度		事業分類
	施策	1	豊かで健やかな長寿社会の実現				支援事業

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	長寿を祝福し敬老の意を表するため、88歳及び100歳の方に敬老祝金を贈呈する。 100歳の方には、慶祝事業として、慶祝状、記念品を贈呈する。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	老人に対し、その長寿を祝福し、敬老の意を表するため、敬老祝金や慶祝状等を贈呈することにより、老人福祉の向上を図ることを目的とする。
-------------------------	---

（3）目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
生きがい感じている高齢者の割合	%	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	88歳及び100歳の方を対象とし、年齢に応じた敬老祝金を贈呈した。 100歳の方については対象者宅を訪問し、慶祝状等を贈呈した。
--------------------------	---

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
敬老祝金の贈呈者数	人	742	686	778
慶祝状等の贈呈者数	人	36	37	37
事業費計	千円	18,191	17,170	18,973
一般財源	千円	18,191	17,170	18,973
特定財源（国・県・他）	千円			
（うち受益者負担）	千円			

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	若干であるが、生きがいをもって生活をしている高齢者の割合が増加傾向にある。
------------------	---------------------------------------

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
生きがい感じている高齢者の割合	%	71.2	73.9	74.8	面が大きいほど良い	効果が上がった

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）		費用が増加した	
効果 (R5とR4の 指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	
	効果は変わらない指標数	0指標	
	効果が下がった指標数	0指標	
	指標全体	効果が上がった	

※ 10万円以上の増減により判断

効果		
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用	費用は下がった	
	費用の増減無し	
	費用が増加した	○

4. 次年度に向けた検討

（1）令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

今後、高齢者の割合が増加していく中、他の敬老事業と併せて、その在り方を長期的な視点で検討する必要がある。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

取組説明	
☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	他の敬老事業を含め、長期的な視点で事業の見直しを検討する。